



福島医大ふくしま子ども
女性医療支援センター教授

横山 浩之氏

今回は、ペアレントトレーニング（PT）を取り上げます。PTは、もともと発達障害がある子どもの行動異常を保護者がトレーナーとなって改善していく手法ですが、普通の子育てや保育・教育にも使えます。おむね一歳以上の子どもでも有効です。

PTでは、子どもの行動を、増やしたい行動、

減らしたい行動、絶対許せない行動の三つにわけます。保護者や支援者は、増やしたい行動を「相手をする・ほめる」、減らしたい行動を「見なかったことにして」、相手に「絶対許せない

行動は「すぐに止める」対応をします。

絶対許せない行動とは、放置すると「けがを付かない行動だけです」。「口答えをする」、「兄弟げんかをする」は、減

か。PTでは、仲良く遊んでいるときには、保護者も一緒に遊んであげることを勧めます。そして、ケンカになったら、その場を立ってしまいます。

おそらく、子どもは「行かないで」とケンカをや

幼い子どもは、保護者や支援者にかまってもらいたいときにわざと減らしたい行動をするようになります。また、このような指導を続けていると、学童期の子どもは、保護者や支援者が嫌いになっ

てしまい、言うことを聞かなくなりません。大人でも、叱責（しっせき）し

ほめてしつける手法

らしたい行動です。

増やしたい行動を「相手をする・ほめる」理由

めるとしよう。そのときに、「仲良く遊ぼうね」と指導をいれるのが、PTです。

くれる、ほめてくれる上司を信用するのです。すなわちPTは「ほめてしつける」手法と言えます。詳しく知りたい方は、拙著マンガでわかる魔法のほめ方PT（小学館、千六百二十円）

は、実際に、われわれ大人は実践できているでしょうか。兄弟が仲良く遊んでいると、それでよいと考えて、放置しているのではないでしょう

ですが、これをやると、

真IIをぐらんぐださい。II 次回は6月17日掲載II

ペアレント トレーニング

